

⑩入佐地区(山都町)

故郷の元気を山都町から発信！
～地域の誇りと未来を築くために～

ビジョン策定年度：平成30年度 目標年度：令和4年度



1. モデル地区のプロフィールと現状

◆農業者に関する状況

・総戸数	87戸	住民台帳
・総人口	236人	住民台帳
・農家戸数	24戸	2015農林業センサス
・農業者数	24人	2015農林業センサス
・担い手数	2人	
・65歳以上の農業者数	14人	2015農林業センサス

(平成29年度)

◆農地に関する状況

(1)面積区分

・水田	20ha	H26固定資産台帳
・畑(樹園地除く)	15ha	H26固定資産台帳
・畑(樹園地)	0.1ha	2015農林業センサス

(2)筆数

・水田	435筆	H26固定資産台帳
・畑(樹園地除く)	545筆	H26固定資産台帳

(3)作付区分

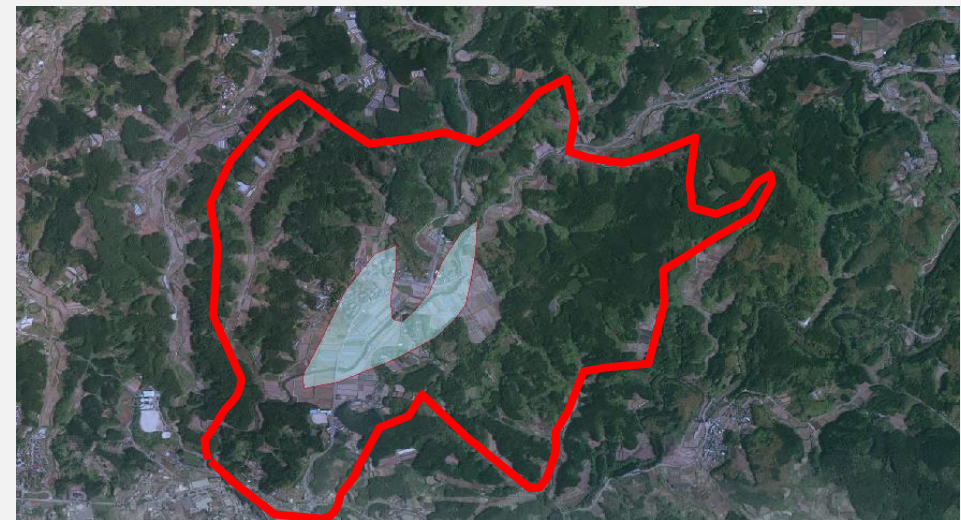
・水田	水稲	※らっきょう、生姜、大豆、ブロッコリー等の生産もあるが、主要品目としてはほぼ水稲に絞られる。
(4)耕作放棄地	あり	

◆基盤整備に関する状況

(1)ほ場整備	40ha整備済
(2)耕作道路	舗装済
(3)排水	コンクリート水路
(4)用水	水路から直接取水

◆集落の現状

- 地区の農業従事者は65歳以上が約60%を占めている。
- 加速度的な高齢化と人口減少で次世代の生産が不可能な状況である。
- 水稲単作で1戸あたりの経営規模が小さく、収益が上がらない。
- トラクターなどの農業機械は各農家が所有し、過剰投資の状態。老朽化しても買い替える余裕がない。



2. ビジョン策定のプロセス

(1) ビジョン検討のスタートに向けて

入佐地区は、農業従事者の約半数が65歳以上と高齢化が進んでおり、若手の後継者は不足している。他の中山間地同様に厳しい現状の中、なんとかこれからも農地を守り継いでいきたいという思いを抱いていた。

地区内には以前から「中山間振興会」という組織があった。今回の中山間農業モデル地区支援事業では、この中山間振興会のメンバーが主体となって「入佐地域営農組合」を設立。地域住民へのヒアリングなどを重ねつつ、農業ビジョンの検討を行っていった。

同時期に法人化立ち上げの話もあり、平成30年に「農事組合法人入佐」を設立。農業ビジョンには法人としての活動案も入れ込んでいくことにした。

(2) ビジョン検討の流れ

ビジョンの検討当初は、老朽化した水路や農道などの農地整備を事業のメインにはどうかという意見があった。そこで田畑の修理要望についてアンケートを実施したところ、件数と種類が膨大でとても手が付けられないと判断。個人的な整備より、全体を見据えた整備をした方がいいという考えに至った。

法人化する場合、所得確保の手段として新規作物を作付けする必要がある。そのための農業機械導入に活用してはどうかと提案したところ、スムーズに合意が得られた。

(3) 先進地への視察

平成30年8月に山鹿市の農事組合法人「庄の夢」を視察。法人経営と米の販売ノウハウについて話を伺った。

作った米をJAに売った後、その米を法人で買い戻して自分たちのブランドとして販売するなど、驚くような話を聞いた。共同育苗についても教えていただいたので、今年は法人で作付けする水田で共同育苗にトライする予定。



農事組合法人「入佐」の設立



農事組合法人「庄の夢」の野中隆弘代表

特別栽培米「庄の夢」

(4) 永続的農業の体制づくり

ビジョン作成にあたって念頭に置いたのは、「高齢になっても継続して農業が営める体制づくり」である。

担い手育成が困難であることを考えると、農業者の従事年齢の延伸が必要。そのためには機械に頼り、仲間の手助けをし、人を応援しながら自分も応援してもらう農業を展開していかなければならない。

高額な農業機械も法人での作業受託や新たな機械の購入などを検討し、個人負担を減らしていく内容とした。



入佐公民館でのビジョン検討会

◆モデル地区農業ビジョンの検討の流れ

番号	日付	場所	話し合いの内容	参加人数
1	H30.1.23	入佐公民館	県、町から事業についての説明	9人
2	H30.3.7	入佐公民館	農業ビジョン内容について	5人
3	H30.6.14	入佐公民館	今後のスケジュール等について 農業ビジョン(案)作成方法について 先進地研修について	8人
4	H30.7.12	入佐公民館	農業ビジョン(案)について 先進地研修について	6人
5	H30.7.26	入佐公民館	新規作物について	7人
6	H30.8.4	入佐公民館	新規作物について	7人
7	H30.8.9	入佐公民館	農業ビジョン(案)について	4人
8	H30.8.10	庄公民館(山鹿市)	先進地研修 ・(農)庄の夢の活動状況について ・春の花まつりについて	13人
9	H30.8.18	入佐公民館	導入機械・施設等について	5人
10	H30.8.23	入佐公民館	農業ビジョン(案)について	6人
11	H30.8.31	入佐公民館	農業ビジョンについて	8人

3. 集落の「課題」と「将来像」

◆集落の課題

- 農家の高齢化の進展
- 農業後継者の不足
- 米価の下落、機械化等により水稲では儲けられない
- イノシシ、シカの被害が多発
- 水路、農道が老朽化

◆集落の目指す将来像

- 持続的な営農体制の確立
- 農家所得の向上
- 刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくり



「蛭丸」伝説が残る恵良城(入佐城)跡

◆成果目標

- タマネギとサトイモの作付面積をそれぞれ20a増加する。
- 消費者との交流イベントを1回／年開催する。

(1)「入佐の米」ブランド化と法人経営の安定

準高冷地である当地域で栽培する米は、平地と違って夏場の農薬散布が不要で、食味の良い上質な米として昔から評判が高い。この土地の特性を活かし、「入佐の米」としてブランド化をすすめていきたい。

高齢化は大きな問題となっているが、これを止めることは不可能である。まずは法人経営を安定させ、新規就農者を含めた雇用を創出することが目標。外部の人間でもいいので、我々の経営方針に共感し、共に進んでいける仲間を見つけたい。

(2)組合活動と担い手確保の模索

新規作物の初年度(平成30年度)作業は役員が担当して順調に進み、収益も良好だった。だが、来年度(令和2年度)以降の担い手がいらない。

役員以外の組合員らは自分の仕事が忙しく、組合活動までは手が回らないという状態。やりがい作りの一環として老人会に依頼するなど、いろんな対策を模索中である。

(3)刀剣「蛭丸」伝説の活用

数年前、オンラインゲームをきっかけに「蛭丸」が全国的なブームとなった。入江地区では、有志の出資で「株式会社蛭丸」を設立し、その後「蛭丸」の商標登録も完了。

組合では「株式会社蛭丸」と共に、米や農産物のパッケージへの活用などを考えていたが、現在、連携は滞っている状態。

このまま動きがなければ、法人として「蛭丸」を活用した地域づくりに取り組んでいこうかと考えているところである。

4. 取り組み状況

[ビジョンの内容]

(1) 持続的な営農体制の確立

- ◆法人を含めた担い手へ農地を集積する。
- ◆畔倒し等により作業の効率化を図る。
- ◆農事組合法人入佐での雇用等による後継者育成を行う。
- ◆ミニライスセンターを建設する。
- ◆老朽化した農道、水路の更新を行う。
- ◆イノシシ、シカの駆除を行い、ジビエとしての活動を図る。
- ◆田畑をフェンスで囲うとともに、雑木林等の整備を行う。

(2) 農家所得の向上

- ◆稲作の共同化によるコスト削減。
- ◆暗渠排水による水田の乾田化を行い、水稻以外の作物を作付る。
- ◆新規作物タマネギ、サトイモ等の試験導入。

(3) 刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくり

- ◆ウォーキングコースを整備する。
- ◆直売所、農家レストラン(民宿)を開設する。
(みんなが集える場所としても活用)
- ◆消費者との交流事業等、年間を通じたイベントを行う。

[各項目の取り組み状況]

(1) 持続的な営農体制の確立について

◆取り組みの状況

農地集積については約47%にあたる19haが完了。最初は集積することに戸惑う農家もいたが、集積の流れや交付金の説明を丁寧に行いながら了承を得ていった。これから5年、10年と経つと離農に伴う耕作放棄地増加が予測されるため、継続して集積を行っていく。今後は農地を維持しつつ、自分たちで米の販売までできるような体制を作っていく。

令和2年から竹山事業が始まり、増えすぎた青竹を伐採して整備している。この間伐した青竹を粉砕機でチップにし、堆肥として活用することを考えている。堆肥舎の建設は2、3年先を目処にしている。

有害鳥獣被害はイノシシ、シカに加え、最近ではアナグマも出没するようになった。この対策については国の中山間事業の半額補助を使い、転作や罾・電気柵の設置などで対処している。地区で捕獲したイノシシやシカは1体10000円で清和の解体場が買い取っている。飲食店などの注文を受けているようだが、肉は余っていると聞いている。この肉を活用したジビエ加工品の開発を検討中。

水路、農道老朽化については国の多面的機能支払交付金事業を利用し、別組織として改善を図っている。

◆取り組みの成果

農地集積は順調に進んでいる。

◆解決すべき課題

入佐地区にはライスセンターがない。現在は他地区の知り合いのところ頼んでいる状態で、10俵分で16000円程度の粃摺り代がかかっている。地区内にミニライスセンターがあれば経費削減につながる上、問屋などからの大型注文にも対応でき、収益向上につながる。しかし予算、候補地の問題があり、実現化はまだまだ先の話となっている。

◆今後の方針

畦倒しはまだ着手できていない。老朽化した農道水路の更新は別事業で取り組んでいく。いずれにせよ法人を立ち上げたばかりであり、今は農業機械導入などを優先的に行っている状況である。

(2)農家所得の向上について

◆取り組みの状況

稲作の共同化については、令和2年から共同育苗を開始する。

新規作物としてサトイモ、タマネギを導入。菊芋も少量栽培した。サトイモは令和元年度25a作付けして収穫済み。タマネギは令和元年12月に10a作付けしており、令和2年5月ごろ収穫予定。

農業機械は平成30年度にマルチ張り機、堆肥散布の機械、竹の堆肥を作る竹チップ機械の3台を購入。令和元年度に水田の除草機1台を購入した。令和2年3月に田植え機と里芋の定植機を購入予定。

◆取り組みの成果

共同機械の導入により作業の省力化が図れた。

サトイモの出来は上々で、約50万円の収益があった。令和2年度は作付け面積を30aに広げる。タマネギは収穫を待って検討していく。

◆解決すべき課題

サトイモは最も手がかからない作物だと思っていたが、予想以上に夏場の管理(草取り)が大変だった。そこをどうにか工夫して、地域で作付けを広めていけるようにしたい。

◆今後の方針

米についてはまず栽培規格の統一を図りたい。一般米と生協の赤とんぼAと有機米があるので、3種類をまとめて「入佐の米」としてブランド化したい。

ニンニクの作付けを検討しているが、加工場と人手の問題がある。やたらと種類を増やしても作業する人間がいないので、熟考した上で判断する。暗渠排水は来年度に1～2か所の施工を予定している。

(3)刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくりについて

◆取り組みの状況

令和元年5月、自治振興区が販売所「ほたる館」をオープンした。

◆取り組みの成果

「ほたる館」では組合の農産物を販売している。

◆解決すべき課題

「蛭丸」の活用までにはまだ至っていない。今後の検討課題。ウォーキングコースも未整備。

◆今後の方針

いずれは農家レストランを開設したい。女性会員が地区の依頼に応じ弁当や盛り皿などを作っている。こういった地元の料理を提供したい。



平成31年4月にオープンした
物産販売所「有機の里 ほたる館」



平成30年度、県のツアーに供された
女性会員たちの地元料理

5. まとめ:成果と今後の展開方向

◆成果目標

- ・タマネギとサトイモの作付面積をそれぞれ20a増加する。
- ・消費者との交流イベントを1回/年開催する。

(1) 全体的な成果

①タマネギ、サトイモ、順調に作付けを拡大中。

新規作物としてサトイモ、タマネギを導入。菊芋も少量栽培した。サトイモは令和元年度25a作付けして収穫済み。タマネギは令和元年12月に10a作付けしており、今年(令和2年)5月ごろ収穫予定。

サトイモの出来は上々で、約50万円の収益があった。令和2年度は作付け面積を30aに広げる。タマネギは収穫を待って検討していく。

②農業機械の導入も順調。作業省力化に効果。

農業機械は平成30年度にマルチ張り機、堆肥散布の機械、竹の堆肥を作る竹チップ機械の3台を購入。令和元年度に水田の除草機1台を購入した。共同機械の導入により作業の省力化が図れた。

令和2年3月には、田植え機と里芋の定植機を購入予定。

③「入佐収穫祭」で町内外の生活者と直接ふれあい。

毎年1回、集会所で開催される「入佐収穫祭」に協賛として参加。農作物販売や女性会員の弁当販売などを行い、町内外の生活者と直接ふれあう機会となった。来年以降も継続していきたい。



入佐収穫祭の催し

④農地集積も順調に拡張。さらなる継続を行っていききたい。

農地集積については約47%にあたる19haが完了。最初は集積することによって戸惑う農家もいたが、集積の流れや交付金の説明を丁寧に行いながら了承を得ていった。

これから5年、10年と経つと離農に伴う不耕作地増加が予測されるため、継続して集積を行っていく。今後は農地を維持しつつ、自分たちで米の販売までできるような体制を作っていきたい。

(2) 今後の展開方向

①事業に対して感謝。

まだ始まったばかりなので、挑戦を継続していきたい。

今のところは事業に対しては感謝しており、特に課題としては出てきていない。始まったばかりなのでまずは掲げたビジョンに向かって挑戦しているところ。2、3年後に結果が出てきたら課題が見えてくるだろうと思う。

②法人活動の拠点となる事務所の設置が課題。

新規就農者への賃金の支援も求められる。

現在、法人の活動は主に集会所で行っており、書類や備品などは各人が家に保管している状態。いずれは法人活動の拠点となる事務所が欲しい。事務所があれば、漬物などを作る加工場を併設することもできる。

また、新規就農者に対する賃金の支援。例えば日当9000円の場合3000円の補助が1年間でもあれば定着の可能性は高まる。この前研修に行ったところでは、役員員の時間給が250円とのことだった。これは大きな課題として捉えている。